

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）2-2 ①  
 「何事にも一生懸命に取り組む子ども達」と保育園から引き継がれた男女7人は、優しい子ども達だったが、担任の目を気にしながら行動する姿が目立ち、「よい子」であろうとして、自分らしさを隠しているのではないかと感じた。

そこで、1学期はスピーチ活動、2学期からは作文を書く活動、3学期は劇づくりをすることにした。劇づくりを通して仲間との繋がりを一層深めてほしいなどそういった願いで、子ども達自身の手で一から劇を作り、7人が自分から作り上げていくことで劇を「演じさせられる」ではなく、生き生きと「演じる」ことができるようになる。  
 絵本選びでは毎日読み聞かせをしてきたので、今までに読んできた物の中から1冊を選んで発表して『きりかぶの誕生日』にすることにした。自分達が選んだ絵本で劇を作っていくことで、「先生にやらされた」のではなく「自分達でやった」という思いを強く持ってもらいたい。自分達が劇にしてみたら、絵本を子ども達が選ぶようにした。

しかし、子ども達に自分達で選んで決める事はもちろんですが、子ども達がイメージしやすく親しみを持っている物や繰り返しが多い話などは、達の思いや楽しげな気持ちを尊重する。他にも物語に出ることが苦手な子や恥ずかしくて照れ隠しをしてしまふ子など色々な子がいるので、それぞれの良さを引き出しながら子ども達の成長を喜び、喜ぶための命運を書いて書く。発表会では、また話の候補が決まったら、子ども達のイメージを膨らませながら、ようやく登場しながら楽しく読む。話の中に繰り返し出てくる言葉のやりとりや子ども達が興味を持った場面などのセリフを大切に、話の中で皆に喜ばれる場面やリズムを増やした役を決めたりするなど、必ずしも新規性を重視する。それ内容を深めたいところながら形を作っていく。子ども達が喜ぶことを心掛ける。この大【音楽】

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

#### • 3匹のこぶた

3兄弟のこぶた達はそれぞれワラ・木・レンガで家を作りますが、ワラ・木の家は狼に吹き飛ばされてしまい、三男の作ったレンガの家は吹き飛ばされることなく3匹は助かるというお話ですが、最後煙突から入って狼が火に焼かれ逃げていくという結末で終わるのではなく、実は狼は住む家がなく困っていて、こぶた達の家に一緒に住まわせてもらいたいとお願いした所、怒って家を吹き飛ばしてしまったが、三男は凄く優しい性格をしていたので、一緒に住むことになり4人は仲良く暮らしましたという話。または、3匹のこぶた達はそれぞれの家を作り、お互いの家を行き来して仲良く遊ぶなどアレンジする。ねらいとして、友達と一緒に取り組むことの楽しさや皆で協力しながらやり遂げることの達成感を味わい、表現することの楽しさを感じることなど子どもが役になりきって友達と協力して楽しくできるようにする。

### ●ねずみの嫁入り

ねずみのお父さんは可愛い娘の為に、世界一のお婿さんを探す旅に出るというお話ですが、親ねずみがお前は太陽さんに決めたら良いと言い出した時に、娘ねずみが「でも私は太陽さんとどう暮らしたらいいのかしら?」と困って主張としてつぶやいてみる。また、最後は風さんにも振られたのを知った娘ねずみが「だったら私は普通にお隣のチュ助と一緒にになりたい」と申し出で、二匹は幸せに暮らしましたなどアレンジする。皆で取り組む中で、自分なりの動きを出して遊ぶ楽しさ、共通の目標に向かって相談・協力したりしながら、やり遂げる達成感や満足感を味わうことをねらいとする。

### ●大きながぶ

おじいさんが種をまき、大きく育ってなかなか抜けないがぶを人や動物が次々と抜いて、力を合わせて最後は抜いて終わるお話ですが、現代風におばあさんが孫を呼ぶ時は携帯電話で呼んでみたり、登場人物が全員種をまいてみるなどアレンジをする。言葉のやり取りをしながら自分なりに役になりきって動作などを楽しみ、皆で一緒に遊んだり、表現したりすることをねらいとして、なりきって遊ぶ楽しさや繰り返しの動作、声を揃える楽しさを十分に味わえるように保育者も遊びの仲間になり、楽しさを共有したり見守ることを心掛ける。

### 参考文献

- 運動会 CD・発表会 CD・ダンス CD・劇・ミュージカル CD の推薦曲まとめ URL <https://aiakids.exblog.jp/2481276/>
- 発表会 剧 ミュージカル 天寿長へ春中尚舟の推薦曲まとめ URL <https://aiakids.exblog.jp/19802965/>
- 生薙の草履あ語りイケメンの奈良帳 URL <http://19men.net/story-of-3-kobuta/>
- 【昔話】ねずみの嫁入り【あらすじ】ネタバレ URL <https://arasujikun.com/archives/402>
- 【童話】大きながぶ【あらすじ】ネタバレ URL <https://arasujikun.com/archives/69>

この少人数学級の子どもたちは皆「よい子」であろうという行動の仕方をしており、自分らしさ、個人での意見の主張、自発的に意見を起こそうとすることがなかなか見られない。そんな子どもたちが、発表会では題材決め、台本、演出、配役など自分たちで1から考えて各自で意見を出し合い、劇を作り上げていくことでただ「よい子」であるのではなく自分たちで考えながら行った内容が形になることに自信を持ち、楽しみながら取り組めるようになった。

もっと発展させるとすれば、配役を増やして一人二役でやってみたり、みんなが知っている内容の絵本をあえて演出や台本を工夫しながら演じたり、絵本からではなく授業の中でオリジナルの短い物語を数本考えて授業の中で演じてみて、みんなが気に入ったものを台本を改めてみんなで考えて発表会などで演じてみると、より自主性の高いものにチャレンジしてみたりすると良いと思う。

#### 幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

題材は幼稚園児などでもわかりやすく、出来るだけ馴染みのあるものを保育者が候補として提示し、それに対して子どもの反応や多数決をとったりと、「自分で選んだ」と実感を持つことでその劇に対して意欲的に取り組めるようにすることができる。

配役などはできるだけ保育者が簡略化し、その分その役の出番を多くとり、一人一人が主役級のように演出する。また、役は1人でするのではなく何人かで1役とするようにする。セリフや動作が覚えることが苦手に思っている子どもが孤立してしまったり、劇が嫌いになってしまってはもともこもないからである。

#### 参考文献

実践での教材 (本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合)

(3)

少人数の学級で、優しいが「よい子」であろうとして担任の目を気にしながら行動する姿など、自分らしさを隠しているように見える子ども達。発表会の劇では題材極めもは意欲も演出、台本も子ども達で考え、意見を出し合う中で「自分から」作り上げていく演劇を通して子ども達の自分らしさや「よい子」としてあるのではなく、自分たちが楽しんで取り組めるようになっていく。

今回の題材、『きりかぶのたんじょうび』は動物たちが入れ代わりながら年輪を数え、その数の意味をきりかぶが伝えたとき、思いがけない素敵で温かな瞬間がきりかぶを包む。」(あらすじ引用)

登場人物は学級と同じ7人(匹)であり、『おおきなかぶ』のように繰り返しの場面がある。これを国語の時間に音読、場面理解のための話し合いを授業の中で行い、劇のセリフを考えたり動きをみんなで話し合い、みんなで劇を作り上げた。

結果、劇づくりを子ども達に任せることで自信をつけ、「劇って楽しいな」「こんな劇を作れた自分ってすごいな」と、子ども達は「よい子」であろうと劇を「頑張って」演じるのではなく生き生きと「楽しんで」演じることができた。

また、もっと発展させると今回は7人の持ち寄りの絵本の中から題材を決めたが、完全にオリジナルの話から劇を作るなども面白いと思う。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

幼稚園、保育園では自分たち全員で絵本を持ち寄るのは少し難しいと思うので、担任が3冊ほど選び、読み聞かせをして多数決を取るやり方になる。それでもみんなで決める中で話し合いができるし、意見が通らず拗ねてしまう子がいれば納得できるまで話し合いの時間を設ければいい。

配役、セリフは同じ役に一人ずつではなく、1つの役に対し複数人でセリフ量の調整が必要になると思われる。

小道具を工作で作るなどしてみんなで劇を作った達成感や自信に繋がると思う。

参考文献

担任の目を気にして行動する姿から、本来の自分らしさを隠しているのではないかと感じた先生は、子どもたちの気持ちが表現できるような機会を作った。学習発表会を劇にして、シナリオ作りから子どもを中心に考えさせた。子どもが考えていることがしっかりと出てきた。教材をアレンジして子どもらしさ、演じる楽しさを感じられた劇になった。

子どもが演じる練習をしている中で、客観的に見る機会もよりよい劇を作るために必要であると思った。実際に演じているところをビデオ撮影し、見ることで、改善点を見つけられ、修正が可能になる。また、改善点だけでなく、良いところを見つけると、練習の時から自分に自信が持てるので、堂々と演じることができると思う。

また、時間があれば、上級生や、先生方に少し見て貰い、いろんな意見を聞いて、考え方たりすることもできる。アドバイスを自分たちのものにすることで、元の物語から発展した劇が作れるのではないかと考えた。

#### 幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

子どもに読み聞かせをしたり、絵本を読むように促したりし、物語に興味を持つようになる。たくさんの物語に触れることで、自分の好きな物語、印象に残る物語を見つける。子どもの反応が良かった物語、人気の物語をいくつか挙げておき、子どもたちに決めて貰い、好きな役をできるように配慮することで、演じる楽しさを味わい、自分に自信が持てるようにする。また、年長になってきたら、元の物語に少しオリジナル性を加えて見るようにする。オリジナル性をもたらすことで、劇を演じる意欲が湧くと思う。自分の考えをみんなに聞いてもらうことで、自分で説明する力や、聞いてもっと良くなるために考えることで思考力が身につく。

#### 参考文献

子どもが変わる・教師が変わる・保護者が変わる学習発表会

[https://www.bunkei.co.jp/d\\_magazine/pdf/t080301.pdf](https://www.bunkei.co.jp/d_magazine/pdf/t080301.pdf)

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

(5)

#### ○本のまとめ

小学校1年生男子5人女子2人の学級が、学習発表会で「きりかぶのたんじょうび」の劇をする。担任は、子どもたち自身の手で1から劇をつくり、自信や達成感を味わせていいきたいと考える。また、自分の内側から生き生きと「演じる」ことができるようにしていきたいと考える。

#### ○教材研究

「きりかぶのたんじょうび」を読み物語の内容を理解する。劇作りをしやすい場面をあらかじめ考えておく。そこから、子どもたちの想像が膨らみやすい場面や台詞の挿絵を用意して子どもたちに台詞を考えもらうようにする。子どもたちが考えた台詞を板書していき台本作りの準備をする。お面と衣装作りは子どもたちに何が必要か問い合わせ一緒に考え用意をする。

#### ○調べたこと

劇作りで必要な演出について考える際は、演じる人物のキャラクター、その時の気持ち、目的などを、子どもたちがイメージすることができる問い合わせをしながら一緒に考えられるようにする。

#### ○発展

学習発表会ということで、1学年のクラス数にもよるが中学年、高学年に上がるにつれてクラスだけでなく1学年で一緒に劇作りをすることもできると考えた。また、二学年ですることも考えたら、劇と音楽を一緒にすることもできると考えた。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

保育参観などの行事で劇ができると考える。乳児は体を動かして表現することで体を動かすことの楽しさを味わうことができると思う。幼児は体を動かすだけでなくわかりやすい台詞を話すことで言葉を覚えたり役になりきることで表現力が身についたりすると思う。これらのことから、「劇をすることで体を動かすことの楽しさや表現することの楽しさを味わうこと」「台詞を話すことで様々な言葉を知り言葉の意味を理解することや言葉を覚えること」をねらいとすることができると考える。

#### 参考文献

- ・脚本の書き方を6つのポイントで紹介。学習発表会の脚本に苦しんでる先生へ

<https://www.scenario.co.jp/online/21660/>

## 取り上げた実践 2章 2節「生き生きと表現する姿を目指して」実践（講義で取り上げたもの以外）

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）⑩

「大変まじめに何事にも一生懸命取り組む子供たち」と保育園から引き継がれた男子5、女子2の学級は、誰かが困っていると声を掛け助けようとしてくれる優しい子どもたち。しかし、一方で担任の目を気にして行動する姿が目立つ。「よい子」であろうとして、自分の意思・個性を隠しているように感じた。

そこで、1学期に久ピーチ活動、2学期は作文を書く活動をし仲間と交流する活動をはじめた。

○子どもの感情を大人が代弁してしまうと子どもの感情が乏しくなり、あまり自己表現をしまくなってしまうかもしれない。子どもの感情をリードし、ありのままを受け入れる。

○大人の目を気にして行動しているのは、前に怒られたかで不快な、いやな思いをしてまた同じ思いをしたくないと思っているのかもしれない。子どもの行為を悪い方に解釈せず、また、子どもの気持ちを押し殺すような叱り方をしない。何がダメなのか具体的にきちんと伝える。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

教材にもあったように、自分たちの意思・気持ちを表現できる機会を与える。クラス全体で難しい場合は、グループを作りテーマ・お題を出して話し合ったり、言いたそうにしている子に話を振ったりして、お互いに何を考えているのか、どう思っているのかを知つてもらう。  
見本よりヒント・ふきだしで書いてみよう

言葉だけでは話しくそうなら、写真やイラストを見せて想像しやすくしたり、子ども自身が絵を描いて表現する。⑨

そうすることで、想像力・表現力が身に付き、そしてコミュニケーション力が付く。表現をする楽しさを知つてもらうことが大切だと思う。

これも題材といえ  
メインにかたづけ方。

### 参考文献

子どもの表現力を伸ばす7つのポイント・NAVERまとめ

<https://matome.naver.jp/odai/2136124913494124301>

- 実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）⑦
- ・よい子であろうとするあまり、担任の目を気にして、自分らしさを隠しているように感じるところがあり、クラスでは自分の気持ちを表現し、仲間と交流する活動を多く行った。
  - ・毎年行っている学習発表会では、劇づくりを通して、仲間とのつながりを深める、役になりきって新しい自分や仲間を見つける、表現する楽しさを味わうといった観点から生き生きと演じることが出来るように取り組んだ。
  - ・まずは、劇で行う作品を国語の授業で取り上げ、音読を中心に一時間行った。セリフづくりでは、作品の中にはないセリフが子どもたちの口から出ていた。配役が決まってからは劇の練習が始まり、台本は読み合わせ前に家で練習をしてきていた。一番セリフが多い役の子どもは、全部覚えてきており、その様子を見た子どもたちはモチベーションを上げていった。動きを付けた練習になると、台本が邪魔になり、次の練習までにほとんどの子どもがセリフを覚えてきた。
  - ・劇の本番を終え、Aさんが書いて担任に見せてくれた文には、動きを大きくやりたいと書かれており、劇を楽しみ、自ら動きを考えていた。頑張って演じるのではなく、楽しく演じることが大切。
  - ・ここでもし子どもたちが興味を持つようなら、国語の授業に劇を取り組んでいくと、学習発表会の時とは違う作品を行い、豊かな感性と表現力が身につく。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

- ・表現遊び⇒言われたものになりきり、楽しく全身を動かす。  
ねらい 言われたものの特徴をつかみ、体で表現しようとする。
- ・リズム遊び⇒リズムに合わせて、踊ったり真似をしたりする。  
ねらい リズムに合わせ、即興的に考え、表現しようとする。  
友達と一緒にすることで、仲を深めことが出来る。

見つけ  
方？

#### 参考文献

<https://hoicieu.jp/asobi/body/all/>

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）

⑧

真面目で何事にも一生懸命に取り組む子どもたちがいるが、一方で、担任の目を気にしながらの行動が目立った。良い子であろうとして、自分らしさを隠しているのではないかと感じた。このような学級で、1学期はスピーチ活動、2学期は作文を書く活動で、自分の気持ちを表現し、交流する活動を行った。すると、喜怒哀楽を表現できるようになり、共感し合うことができるようになってきた。3学期は劇を通して仲間との繋がりを深めていき、役を通して表現し、新たな自分や仲間を発見してほしいと願った。そして、何よりも表現する楽しさを味わってほしいと願ったのだ。また、子どもたち自身の手で一から作ることにより、自信や達成感を味わわせたいと考えている。演じさせられているのではなく、自分の内側から生き生きと演じることができるようにしていきたいと考え、取り組み始めた。自分たちで絵本を選び、自分たちで作品を読み、自分たちでセリフを考えた。そして、世界に一つだけの劇が完成した。

#### 幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

子どもたちに馴染みのある絵本を何冊か用意し、子どもが興味を持った絵本を題材に劇を行ったりする。そして、劇に関しては体を動かしたりし、運動をしながら全体で楽しむことができる。また、内容を把握しやすいように絵本を読み進める。「相手にプレゼントを届けようね」と声を掛け、相手を意識して読むように促していくと子どももより、役に入りやすいと感じた。このように、子どもが理解しやすく、わかりやすいような声の掛け方をする。また、劇以外にも作品をつくったり、好きな場面を絵に書いて表現したりすることもできると思った。子ども一人ひとりの感じることはそれぞれ違うので、子どもの個性が出てくると思う。そして、保育者が○○くんの絵はこういう場面を描いたみたいだと他の子どもに伝えることにより、新しい場面に気づくことができ子どもの視野を広げることにも繋がる。また、自分自身で伝えてみようと課題を出し、表現の仕方を学ぶことができる。

#### 参考文献

[https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive\\_0000023252\\_00/1-4\\_黒川美喜子%EF%BC%88太田東小%EF%BC%89.pdf](https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000023252_00/1-4_黒川美喜子%EF%BC%88太田東小%EF%BC%89.pdf)

小学館：子どもが生き生きする保育環境の構成

実践での教材（本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合）⑨  
保育園から引き継いだ7人の子どもたちは学級で「いい子」であろうとする姿が見られた  
学期ごとにスピーチや作文などの活動を通して、子どもたちの気持ちを表現したり、交流  
する場を設け子どもたちが成長する姿から劇一つでもよいものにしようとする教師の姿が  
見られる。

シナリオを決めるにも子どもたちが達成感を味わうことができるよう様々な方法を考え  
ている。また子どもたちが登場人物が7人というこだわりを持ち自分たちで作りあげてい  
る。

絵本の挿絵から登場人物の表情や動きを話し合いながら、歌や踊りを考え工夫している。

幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか  
子どもたちが体を使い楽しめるように歌や音楽があり踊りができるような題材

短いセリフがあり、一人ひとり違った表現ができる題材

参考文献

## 実践での教材 (本のまとめ+教材研究を加える・調べたこと+もっと発展した場合)

『希望をつむぐ教育』の第2章を読み、子どもは自分らしさを隠し、教師の目を気にしながら行動している姿が見えた。子ども一人一人の感性や発想が生きる教育をするため、作文を書く活動を行った結果、様々な表現を出すようになり、子どもたち同士でも交流し、共感しあうことができるようになった。また学習発表会で行う、「劇づくり」では、今まででは、教師が教材を選び、劇をしてきたが、今回は、子どもたち自身の手で一から劇をつくり上げていくことで「演じさせる」ではなく、自分の内側から生き生きと「演じる」ことができるようにしていきたいと考えた。

子どもたちは、集団生活を通して、認め合い、支え合うことができるようになるということが分かった。協力して何かの目標に向かい取り組むことで集中力や落ち着きを取り戻すことができる。子どもたち一人一人が楽しめるよう、周りをよく観察し、環境構成などを工夫する必要がある。子どもたちから意見を言ってもらえるよう保育者は子どもの意見を引き出すことが必要である。

環境構成は子どもが生活する上で大切なことであり、幼児が活動への意欲を持ち、主体的な活動を展開するようになるためには、幼児の中に興味や関心を持ち、あるいは活動を展開することができる幼児にとって意味のある物理・空間的な環境が必要とされる。

また、教師が指示をし、やらせるのではなく、子どもたちが整った環境に頼らず、自ら考え行動できる人間になるため、押しつけない指導をする必要がある。

## 幼・保でやるとすればどのような題材になるか、なにがねらえるか

鬼ごっこやフルートバスケットなど集団遊びを多く取り入れる。集団遊びを取り入れ、子どもたちで、ルールを新しく変えることで考えながら、協力し合い活動に取り組むことができる。

また、異年齢での活動をする。年上の子どもたちは年下の子どもたちの世話をし、教えることで自身をもち、思いやりの心を育て、年下の子どもたちは、年上の子どもの活動を見て学び、憧れを抱くことができる。なので、子どもの個性を引き立たせるためにも、異年齢の活動は大切である。

このような活動をすれば、幼児の終わりまでに育ってほしい姿、10項目を達成することができる。

## 参考文献

- ・『希望をつむぐ教育』
- ・授業プリント
- ・[https://www.soccer-king.jp/sk\\_blog/article/402966.html](https://www.soccer-king.jp/sk_blog/article/402966.html)